

【公開用】

第6回

上野地区まちづくりビジョン推進会議

日時：令和8年1月27日（火）

10：00～11：52

場所：台東区役所10階 1001会議室

午前10時00分 開会

1 開 会

2 座長挨拶

3 議 事

(1) これまでのビジョン推進会議の振り返りについて

○座長 それでは、お手元にあります議事次第を御覧ください。本日は、これまでの会議の振り返りから始まって、進捗状況の報告、そして今後の取組というように進めてまいります。

順次説明いただこうと思います。

最初に、「これまでのビジョン推進会議の振り返り」について、説明をお願いいたします。

<事務局より【資料1】について説明>

○座長 ありがとうございます。

これまでの振り返りで、今まさに動いている中身については後ほど資料2でいろいろ御紹介いただけるということでございますが、何かこれまでの振り返りで御質問があればいかがでしょうか。振り返りですからよろしいですかね。もし何かあれば、また後ほど御発言いただければと思います。

(2) 上野地区まちづくりの進捗状況について

○座長 それでは、続きまして、現在のまちづくりの進捗状況について御報告いただき、意見交換をしたいと思います。

大きくまちづくり推進部会の報告と基盤整備推進部会の報告の2つがございますので、それぞれ一つずつまず説明していただき、意見交換というふうに進めていきたいと思いま

す。

それでは、まちづくり推進部会の説明をよろしくお願いいたします。

<事務局より【資料2-1】について説明>

○委員 エリアプラットフォームについて一昨年ぐらいから話が出ていたと思いますが、大分具体化して、方向性もかなり書き込まれて、また最終的に都市再生推進法人を目指すという方向性も非常に明確に打ち出されて、大変楽しみになってきたと考えております。

初年度の部分では、この枠を広げていくというか、新たな担い手を発掘していくとか、こういったことが挙げられている。これは非常に重要なところである一方で、やっぱり上野地区は、先ほどの振り返りでもありましたが、これまでかなりまちづくりの取組というのが御承知のとおりございまして、例えば上野まちづくり協議会とかを基盤としまして、かなり議論と合意形成がされてきたという経緯もございまして、そのあたりの既存の資産・社会関係資本みたいなものをどううまく接続していくのかが非常に大きな課題になってくると思いますし、また今後のエリアプラットフォームのリーダーシップにも関わってくるのかなと考えております。つまり、ここまでやってきた取組をしっかりと生かしながら、新たな方をどう発掘して加えて枠組みを広げていくのか、それが上野のやり方として、一からつくるような地域ではないと認識しておりますので、そのバランス感覚と進め方が非常に求められるところかなと考えております。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

一旦ここで少し意見交換をしたいと思います。

まちづくり推進部会でこういった活動を今やっていますよ、これから都市再生法人を目指してエリアプラットフォームをさらに進めていきたいと、こういう内容でございました。

どこからでも結構ですが、御質問あるいは御意見があれば頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

カレンダーの説明はあまりなかったですが、これはいいのですか。今手元に置いてくださっているやつは。

○事務局 今、座長からございました杜まち連携カレンダーについて御紹介させていただきます。

机の上に設置しておりますこちらの資料を御覧いただければと存じます。

こちらは、2025年～2026年にかけて杜の各施設とかまち側の各団体や事業者等々が行う予定、行ってきた活動を一覧で整理したものでございます。各月でどのような活動や取組が行われているか、こちらで御覧いただければと存じます。

このカレンダーにございますとおり、杜側、まち側で多様なイベント・活動が上野地区では開催されております。

今後これらのイベントや活動をさらに各施設とか各団体が連携することによってより相乗効果を発揮させていきたいと考えておりますので、こちらを参考にいただければと思います。

このカレンダーをきっかけに、先ほど御紹介いたしましたデジタルスタンプラリーの“furari”が開始されたという経緯となっております。

簡単ではございますが、こちらの資料の説明は以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

これを見ていただくと分かるとおり、2026年が少し埋まっていない部分については、引き続き御協力いただき埋めていけばいいと思いますが、実際に様々なイベントはかなり前から皆さん下準備されていらっしゃるの、ここで合わせましょうよと突然言われてもなかなか合わないだろうと思います。そういう意味では、この先、2027年など、さらに進んでいくようなタイミングで何が起きそうかを少し共有できるといいですね。先ほども、銀座線が開業して100年というタイミングのときにそれぞれが何をおやりになろうと今準備しているのかというような先が見えると、じゃあ合わせてやってみようかなというようなこともいろいろ出てくると思うのです。長期的に順番をちゃんと決めて取り組んでいるところも多々あると思うので、決まっていらっしゃるものがあれば、そういうものを少し入れてみんなで共有できるといいと思います。

ありがとうございます。

まち部会の関係で何かいかがでしょうか。先生方からもアドバイスがあれば頂きたいと思いますが。

○委員 エリアプラットフォームというのは、多分上野ってすごく広いと思うのですけれども、主にどの辺を活動範囲とお考えですか。

○事務局 お答えいたします。

まだ検討段階ではございますけれども、エリアプラットフォームにつきましては、今ビ

ジョンの中で位置づけております上野地区の全域を今のところは対象としております。ただ、今後の検討状況によって、そちらについてはまた調整等させていただければと想定しているところでございます。

○座長 いわゆる上野地区って、先ほど御紹介があったあのエリアを指しているという。先ほどというのは、振り返りで地図が入っていましたね。そういう理解でよろしいのですか。

○事務局 はい、そうでございます。

○座長 資料1の4ページに色が塗ってある部分があって、ざくっと言えばこの杜とまちの範囲ぐらいのイメージということでもいいでしょうか。

○事務局 そうですね。

補足をさせていただきます。

先ほど御説明いたしました資料1の4ページを御覧ください。黄緑色のエリアが杜を示しておりまして、薄いオレンジ色のエリアがまち側を示しております。双方のエリアにつきまして、エリアプラットフォームでは対象としていきたいと考えております。

○座長 よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○座長 ほかに何か御質問があればお受けしますが、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

○委員 今の件をもう少し確認したい。この資料1の4ページの図ということですよ。そうすると、多分一般的に上野と思われるよりも南側、東南方面に相当長く伸びているという印象もあるのです。あるいは東側が大分、北東のほうもちょっと膨らんでいますよね。実際、矢印で書かれたところは北東のほうと南東のほうはあまりカバーされていないというのちょっと。資料1の4ページ目の図で今申し上げているのですけれども、このあたりを確認させていただけますか。つまり、「南北都市軸の再生（旧参道）」と書かれているところ、それからまち、ここが南北の境目になって、東西が昭和通りと不忍通りの向こう側のところになるのは恐らくほとんどの方は異論がないと思うのですけれども、それより結構南に大きくはみ出している部分と、北東にかなりはみ出しているというか、これは上野七丁目より東側も北東側も含まれているように見えるのですけれども、鶯谷の東側、これは入谷の交差点まで恐らく入っていますよね。この辺はかなり大きいなという印象もありますので、このあたり、もう少し趣旨を明確にさせていただけますか。

○事務局 お答えいたします。

上野地区はかなり広域で示しておりますけれども、まず南側の部分につきましては、JRさんの鉄道高架沿いも含め、その沿道も含めて広範囲に商業地域が広がっております。また、「2k540」とかにぎわいの空間というのもございまして、そちらについても回遊性を高めていきたいという想定で、こちらについてもエリアに入っております。

また、東上野四丁目以東の東側、稲荷町のほうの部分でございまして、こちらでも浅草方面へのつながりというのを意識しております、そちらについても面的なまちづくりを行っていくことを想定したものでございます。

また、鶯谷駅周辺方向でございまして、こちらについても、今は具体のネットワークの矢印等が入っておりませんが、今後まちづくり推進に向けて検討を進めてまいりたいというエリアとなっております。

○委員 例えば任意団体から一般社団法人にして都市法人にすると。そういうふうにエリアも一回広げてしまうと絞るのって多分難しいと思うのです。会員、会誌とか、いろいろな関係で。だから、例えば小さいところから始めて活動の方向性ができた時点で少しずつ広げていくとか。全部べたっとやるのか、そういうふうに段階を考える余地が全くないのかということをお聞かせ願えますでしょうか。

○事務局 お答えいたします。

エリアの設定でございまして、今のところは広範囲で考えているのですが、今御指摘のあったとおり、今後検討していく内容というのはあろうかと思えます。ただ、一方で、4ページで示したとおり、上野地区はこの中でかなりの多様なまちづくり活動が実施されておまして、それらについて幅広く下支え、応援をしていきたいというような考えがございまして、今の御意見も含めまして、今後、どのようなエリアがふさわしいのかということも含めて検討させていただければと存じます。

○座長 これは具体的にはまちづくり部会の中で議論がされるという理解でよろしいですか。

○事務局 はい。こちらにつきましては、まちづくり推進部会の中で議論を深めてまいりたいと思えます。

○座長 どういうふうにスタートを切るのかということですね。初めからビジョンのエリア全体をターゲットにするのか、もうちょっとコアなところから始めて、いずれ広がっていくことも想定しながら進めていくかという、その辺の議論。では、引き続きまちづくり部会の中で少しもんでいただいて。実際に運営の仕方にも関わっていきますよね。

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

○副座長 私は1年前の会議に出なかったですし、いろいろあって、まちづくり推進部会でどんどんやっているなという印象で、連携が必要だと思うので、ちょっと質問ですけれども、ちょうどこの資料1の4ページで今の緑とオレンジの広がりがあります。このエリアプラットフォームというのは当然この緑のほうも含めてという御議論だと思うのですが、それが特に上野の特徴かなと思う一方、主体が大分違いますよね。オレンジのほうは民間の方だし、緑の中に立地しているものは国とかそういうもので、これは同じ感じでまとまっていけるのでしょうか。

○座長 その辺はいかがでしょうか。

○事務局 お答えいたします。

杜の部分でございますけれども、先ほどありましたとおり、ヒアリングをした方から様々な御紹介を受けながら数珠つなぎで今ヒアリングを行っております。上野側につきましては、東京藝術大学さんとか、いわゆる藝大部屋と言われている施設など、それから上野公園内で施設を展開しておりますスターバックスさん等、そのような方々と今意見交換を行っております。

今後につきましても、来年度にかけまして、各施設の方々、それから北部エリア、上野公園の北部のエリアですけれども、そちらの施設の方々等とも意見交換をさせていただきながら今後の取組とか活用の方向性を共有してまいりたいと考えております。

○副座長 ありがとうございます。

それに関して質問というかお願いみたいなことなのですが、事務局の皆さんとはその話を何度もしていますが、上野のアートというと今日の資料も大半が美術の話になっていて、東京藝大には音楽学部もあって、東京文化会館もあってということで、音楽というものがあまり見えてこない。一方、音楽は人がやる芸術で、結構人に由来していると思うので、その辺のつながりというのが何か。徐々に広げていけばいいとは思いますが、どんな感じで展望できますでしょうか。

○事務局 お答えいたします。

杜側とまち側の連携をどういうふうにもうまくやっていくかということも今ちょうど検討をしているところでございます。エリプラの活動を今後より具体化させていくのですが、その中でエリプラの担う役割をより明確化させた上で、事務局を今後構成していき

ますけれども、どのような方々に仮事務局に入っていただくのか等も含めて引き続き検討させていただきます。

○副座長 お願いいたします。私がそこにずっとこだわっているのは、アートのまちづくりというとすぐパブリックアートに行ってしまうと、ペインティングなどが始まってしまいます。それはどこでもやっている話で、上野でやることではないと思うので。やっぱり上野はもっと重層的にいろいろな文化のものが固まっている唯一の場所だという感じでいけたらいいなと期待しますので、ぜひまた議論させてください。

○座長 藝大さんも幅広いですものね。いろいろな方がいらっしゃいますからね。

○副座長 最近は新しいものもやっていますし。

○座長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。一旦はよろしいですか。

では、もう一つの基盤のほうの話も伺って、また最後全体を見渡して御議論いただきましょうか。

では、基盤部会のほうの御紹介をお願いいたします。

<事務局より【資料2-2】上野駅周辺の都市空間再編の方向性について説明>

○副座長 御説明、ありがとうございました。

こちらはいろいろと解説めいた説明も必要になってまいります。どこまでいくかという、基本的には上野の将来をどうするんだというのがビジョンに書いてあるわけですが、実はそれに対して、まちづくり部会のほうは極めてソフトなものを扱っていらっしゃるのですが、一方で基盤部会のほうは最終的には基盤に落とし込んでいくとなると、結構ハードを具体的に考えなければいけなくなり、ビジョンで言っている大まかな方向性に加えて具体的に、例えばどれだけのボリュームのものが増えるとか、どういう内容の建物が今後展開するとか、だんだんそういう領域に達してきております。

そこで、今日は前般で国際競争力の中の東京みたいなことが書かれておりますが、どこからお話しするかというと、ちょっと趣旨が違う図なのですけれども、19ページの図が怪しい図で、これはグリーンインフラの図として示されておりますが、グリーンインフラの図だからと思って事務局はうっかり気軽に書いたのか、真ん中に結構背の高い四角い箱がありまして、これは何だろうという感じになるわけです。基盤のほうの図ですと、14

ページの図ですけれども、何か建物っぽいのがあられるのだけれども、上のほうがごまかしてあって、どこまであるのか分からない。ここをどうするかというのが基盤部会としては非常な関心事でありまして、多分そういうある固まりが動くことによって次のイメージづくりなり地域全体の展開もあるかなと思っていて、実はこのビジョンをつくる段階でも、駅と駅の近接の辺をどうしていくのだろうねという議論は過去にも随分具体的に、委員会には出していませんけれども、してきたことがありまして、きっと今後そういうのを詰めていかなければいけないのではないかなと思っています。

一方、ビジョンをつくってから何年かたつ間に我が国もどんどん変わってきていて、7ページにお示した森記念財団の、東京が世界で2位だといってみんな大喜びしているわけですけれども、これには2つ重要なことがあって、まず、森記念財団がやったということですので、どうしても日本のことがよく分かっている。これをカーネギー財団がやったというなら私はもろ手を挙げて喜びますけれども、そうでもないというところが1点と、右側のチャートを見ますと、1位と言っているのは居住ですね。何となく国際競争力とかいうと皆さんが直接イメージされる経済は12位ですからね。私なんかはもう年を重ねているので日本も落ちたものだと思いますけれども、かつてGDP2位だった我が国も間もなく4位になるのだそうです。

そういう中で、20年といいますか、2040年代ぐらいの将来像の上野をどう見ていくかというので、さっきお見せした真ん中のかい箱は一体何だろうという議論を今後基盤部会では詰めてまいりたいと思っています。

基本的な方向性はビジョンを受けていますので、この23ページの図のような——「グランドコンコース」、「サンクンガーデン」という言い方は多分今回出てきたと思うのですけれども——こういう構成なのだろうとは思うのですけれども、その周りに何をくっつけていって基盤として整えていくのかというのをいよいよ今後議論してまいりたいと思っています。

ウォークブルのことも盛んに出ておりますが、私的に見ると、ウォークブル議論は国もすごくそういう方針になって、道路法とかを改正されてそっちに動いていることは実に望ましいことだと思う一方、やっぱり具体的に現場に行くと、まず自動車交通の需要があって、そっちを確保した後に何ができるかという議論でしかなく、やっぱり自動車中心じゃん僕はずっとと思っています。歩行者のほうを先に決めて、残ったところを車が使いなさいというのが人中心ではないかと思いますが、決してそこまでには至っていないので、そ

ういう範囲でウォークブルをどう考えるかというのも、我々の課題ですので、今議論している最中であります。

それからもう1点、ちょっと言い訳がましいのですが、16ページのグリーンインフラですけれども、既存の緑があるところと広幅員街路の街路樹、これは民間開発の中で緑を確保してもらってくっつけていくんだよというふうに書いてあるのですけれども、東京というまちがどういう自然の上に乗っかっているのかをそろそろまちづくりは考えるべき時期で、ここなんかは、上野の台地があって、そこからの湧き水で不忍池があって、かつてはここは川が隅田川のほうに流れていたわけですが、そういうもともとの地形と水循環みたいなことも含める中でグリーンインフラを今後考える、基本的にはまずその入り口編だということで、基盤部会はそのようなので、もうちょっとありていに言ってしまうと、最初ビジョンを受けて、「わあ、いくぞ」という感じのところをちょうどコロナがやってきて、しばらく足踏みをしておりまして、いよいよ何かいろいろと状況が整ってきて、「やっぱりいくぞ」という段階で今条件整理をしているところでございます。そんなふうに理解していただければと思います。

○事務局 ありがとうございます。

<事務局より【資料2-2】ウォークブルまちづくりの取り組みについて説明>

○事務局 36ページを御覧ください。昨年10月に実施された「パンダバシわんわんハロウィン」の様子を御紹介いただければと存じます。よろしく願いいたします。

○委員 それでは、パンダ橋における実証実験についての御報告をさせていただきたいと思えます。資料記載のとおりですが、昨年10月24～26日の3日間、杜とまちを結ぶ空間でもあるパンダ橋を活用したにぎわい創出の実証実験が行われました。これまでパンダ橋の実証実験というのは4年間ほど続けていたわけですが、そちらでは施設管理者である当社JR東日本の主催、もしくは台東区様との共催によって実施してまいっておりましたが、この資料の点線の四角囲みに記載してございますように、今回はパンダ橋の空間を弊社から上野中央通り商店会様にお貸しして主催いただくという新しい形態で実施いたしました。こういった方式等によって、地域の皆様や周辺の事業者様と連携した上でのパンダ橋の利活用を進めていくためのより多様な、また継続的なスキームの構築に向けた実証実験になったのではないかと考えてございます。

今後もパンダ橋におけるにぎわいの創出とか、また杜とまちを結ぶ空間、こういった回遊性の向上に向けて、区とか地域の皆様と協力して進めていきたいと考えてございます。

資料の説明は以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

説明の前に、先ほど34ページの不忍通りの説明におきまして、東京都が令和7年3月に指定を行ったという部分で、正しくは「歩行者利便増進道路」でございます。訂正させていただきます。失礼いたしました。

それでは、説明を続けさせていただきます。

37ページ及び38ページを御覧ください。昨年10月に実施された「上野大茶会」及び11月に実施された「光のアートメトロ」の様子を御紹介いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員代理 まず、37ページの上野大茶会から御説明させていただきます。

記載のとおり、10月25日、昼間の時間を使いまして、「上野大茶会」と題しまして、弊社の用地、下に写真がございますけれども、東上野4丁目駐車場の用地並びにジュエリーブリッジを使わせていただきまして、台東区様に御後援いただきながら、茶道のワークショップやお茶の配布を行わせていただきました。また、まちの回遊性向上を目的としまして、同日開催の別イベントでスタンプラリーも実施したところでございます。

当日は多少悪天候なところはございましたけれども、4丁目駐車場の茶道のワークショップに関しましては80名程度、ジュエリーブリッジにおけるお茶の配布に関しましては100名程度の方に御来場いただいたという結果でございました。

38ページを御覧ください。こちらは「光のアートメトロ」でございます。

こちらも記載のとおり、11月1日、上野観光連盟様主催の「Peace of Light」において、当社主催のワークショップである「光のアートメトロ」を実施させていただいたところでございます。本ワークショップでは、メトロ内の遺失物として廃棄予定だったビニール傘、写真がございますけれども、これにLEDライトの装飾を施して上野公園から不忍池まで歩いていただいたという形でございます。

こちらも当日は300名弱の方に御参加いただきまして、参加者それぞれ思い思いに粉飾した傘をお手に持ちまして、幻想的な雰囲気の中、不忍池まで進行を楽しんでいただいたという次第でございます。以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、説明を続けさせていただきます。

39ページを御覧ください。昨年11月2日、中央通りにおいて、「上野広小路ヒロバ化社会実験2025上野博覧参道」を、上野まちづくり協議会主催、台東区共催により実施いたしました。

上野まちづくり協議会、佐藤会員が本日所用で不在のため、事務局が代わって御紹介させていただきます。

社会実験3年目となる今回は、上野公園前交差点から上野広小路交差点までの約400m区間の一部において歩行者専用化及び歩道拡幅を行いました。交通規制は9時～18時まで実施し、迂回に伴う周辺道路の交通量増加は確認されましたが、著しい渋滞の発生は見られませんでした。また、社会実験実施時及び平時の平日・休日における交差点需要率を確認した結果、いずれも上限値を下回っていることを確認いたしました。

詳細につきましては、後ほど参考資料4「社会実験の詳細」を御覧いただければと存じます。

今後は、これまでの社会実験の結果を踏まえ、上野まちづくり協議会を中心に、中央通りの将来像に関する具体的な検討を進めていく予定でございます。

こちらは、上野広小路ヒロバ化社会実験実行委員長でございます委員より補足いただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

○委員 今回の上野広小路ヒロバ化社会実験で実行委員長を務めさせていただきました。

よろしければ、お手元の参考資料4の6ページを御覧いただけたらと思います。こちらに概要を少し詳細に記載いただいております。

今年は3年目の開催になりまして、2023年度から区間を変えながら実施してまいったものの3年目ということで、一応3か年でやっていきましょうということでスタートいたしましたので、一回一通りの区間について実験と検証が終了したところでございます。

今年度は、中央通りの南側、春日通りも一部横断して会場を設定いたしました。全体といたしましては、先ほど御報告もありましたように台東区さんのほうで交通量調査もされまして、全体の交通量の増減というものが確かめられましたけれども、大きな問題はおかげさまで何とか発生せずに実現ができました。

おめくりいただきまして、8ページを御覧いただけますでしょうか。今年設定いたしました会場といいますのが、中央通りのやや南側の春日通りの上野広小路交差点付近までの区間なのですが、こちらがちょうど上野のまちのたくさんのコミュニティの方々が

関わる、コミュニティにとっても中心軸になるところでございまして、今全体でまちの中で議論されております基盤のほうのビジョンとまちづくりのほうのビジョンが、基盤はハード、まちづくりはソフトと一応区切りはついているのですけれども、上野の数ある公共空間の中で、ちょうど今回実験いたしました場所が、上野の方々の様々なハードとソフトが交差する場所の一つという実感しました。

今後は、上野のまちのたくさんの方々のコミュニティ、ステークホルダーの皆様と、この空間、やはり伝統のある寛永寺の旧参道という場所で、歴史的にもたくさんの方々のコミュニティの接点として機能してきた場所でございますので、ここをこういった形で実験できてにぎわいが確認できたというのは、大変大きな意義だったのではないかなと思っております。

私からは以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、説明を続けさせていただきます。

資料2-2の40ページを御覧ください。上野広小路ヒロバ化社会実験において、寛永寺との連携事業といたしまして、デジタルスタンプラリーの参加者を対象にした天井絵の限定先行公開及びろうそくを活用した藝を育むまち同好会によるワークショップが開催されました。補足説明をお願いしたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○委員 補足説明といたしまして、今回のヒロバ化社会実験は、ヒロバ化社会実験さんからお声がけいただきまして、藝育会の方のかわいらしい竜をモチーフにしたキャンドルのワークショップと、またデジタルスタンプラリーを利用して、まだ一般公開していない段階での限定公開をさせていただきました。おかげさまで、袴腰広場でやられているワークショップから寛永寺までおいでいただいているというような交流ができたかなと思っております。そのようなことを今後も少し試行錯誤しながら続けていけるような形ができればありがたいかなと思っております。

以上です。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、資料の41ページを御覧ください。昨年11月1日から3日にかけて、御徒町パンダ広場において「シタマチ.文化祭」を、御徒町駅南口商店会主催、台東区後援により実施いたしました。JR東日本による御徒町駅開業100周年記念の取組や地元学生による演奏会など、地域の関係者の協力の下、様々な取組が行われました。

42ページを御覧ください。10月31日から11月3日に、不忍池周辺及び水上音楽

堂におきまして、上野観光連盟主催で「Peace of Light」が実施されました。11月2日・3日の不忍池の上空では上野で初めてドローンショーが行われ、数多くの来場者が鑑賞されております。

こちらにつきましては、委員より補足説明をお願いいたします。

○委員 このドローンショーですけれども、上野のまちでは初のドローンということで、東京都内でもまだそんなに例がなかったものですから、かなりドローンに対する様々な制約がございました。そのいろいろな制約、ハードルを、今日もいらしてはいますけれども、東部緑地公園事務所と何度も何度も打合せを進めながら、また台東区さんからも後援を頂きながら何とか実施することができました。

実際のドローンで表したこの映像は、上野に関わりのあるものをモチーフとしまして、例えば右下にありますのは桜ですね。あとは、ここには写っていませんけれども、蓮の花だったり、パンダだったり、あと、ちょうどメトロさんが100周年を迎えるということでメトロさんの電車の映像だったり、また、寛永寺さんが400周年ということで薬師如来坐像というような形のものを表現いたしました。

今後、今年もこれは定番にしていきたいと考えていまして、皆さん御存じの7月の最終土曜日は隅田川花火大会、これはもう全国的に有名なイベントになっています。我々としたら、今回は10月31日から11月とまたぎましたけれども、11月の第1土曜・日曜は、花火ではないですけれども、上野の不忍池ドローンショーというものを定番に、浅草に対抗するわけではないですけれども、していけるようにこれからも広げていきたいと考えております。

また、今後もドローンの映像に関しては上野に関わりのあるものということで。今年度既にお話が来ているのが、西洋美術館が世界文化遺産登録10周年ということで西洋美術館の映像を流すということはもうほぼ決まっております。また、それ以外のことも今検討中がございます。

また、今回、蓮見広場にお客様がかなり集中してしまいましたので、ドローンショーの映像がこういう形ですと今回ここだけだったのですけれども、それをこのようにぐるっと回すことによって蓮池半周ぐらいのエリアのどこからも正面に見えるような形で考えて、お客様を広く収容できるように、そこで安全面を確保していきたいと考えております。

以上です。

○事務局 ありがとうございました。

資料2-2の御説明は以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

基盤の話で、不忍通り、中央通り辺りをなるべく人の空間に変えていきたいというような取組とともに、先ほど来、実験的な試みを幾つか御紹介いただいたところかと思えます。

来年度は駐車場に関してルールを少し考えたいということですので、また御協力いただきたいと思えます。

ここまでの説明で何か御質問、御意見があれば頂きますが、いかがでしょうか。

○委員 改めましてよろしく申し上げます。

2-2の7ページのところで、先ほど副座長からも御説明がありましたとおり、日本の経済の落ち込みということで12位となっている。これは上野あるいはまちづくりということでどうこうできるものでもないという部分がある中で、例えば居住が1位になっているというのは非常に隔世の感があるようにも思われますが、東京の中で上野がどんな役割を果たすのかという観点が非常に重要だろうと考えているのです。

その後の部分で、この左下のところにも「上野の強み」、「上野の伸び代」とあって、この議論を踏まえていろいろ展開されているかと思うのですが、「『文化・交流』構成要素」というところにある意味フルセットで挙げられているように思われるのです。上野は4ページの御説明にもあるとおり非常に多様な要素があるとはいえ、この全ての要素を備えたまちというのは世界に存在し得ないというか、あり得ないことだと思ふのです。恐らく東京全体としてこれを全部持っていく必要があるという中で上野がどこをやるのかという観点が非常に重要なのではないかなと考える次第でございます。

例えば国際コンベンション件数というのは非常に重要な指標ではありますが、例えば上野に大きなコンベンションセンターを造るというのはあまりにも現実的ではないですね。その部分で言うと、次の8ページのユニークベニューというのが一つの上野らしい貢献の仕方ということになると思ふし、あるいはナイトライフの充実なんかは上野として伸ばせる部分はあると思ふのですが、ホテル客室数、ハイクラス客室数とありますが、いわゆるファイブスターホテルが東京に少ないということが事実としてはございますけれども、あれだけの巨大な敷地面積を必要として、また割とホテルの中に囲い込む傾向のあるハイクラス、ファイブスターホテルの大きいものをこの地区に造るというのが、東京全体ではどこかに必要ですけれども、果たして上野に必要なのかどうか。それから、もしかしたらここに括弧書きであるような上野らしいコンセプトホテルというようなもののほうが望ま

しいのではないかという気もいたします。

そういった観点から、東京に足りないものを全て上野でやっていくんだということではなくて、まさにこの前段のところで個性が非常に重要だということがあったのを踏まえて、東京全体にとって上野が担うべきところは何なのかという観点でぜひ基盤整備を進めていただければ。個性を失わず、そこを伸ばしていくという方向でぜひ考えていただければと思います。

そこを敷衍していきますと、先ほど副座長からも御指摘がありました緑のことにつきましても、よくあるような開発に基づく緑地という発想だけではなくて、お話もありましたとおり、上野の崖線、自然地形を利用した緑の整備とか、そういう発想にもなってくるかと思しますので、ぜひそういった部分を期待と思っているところでございます。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。御意見でも結構ですが。

○委員 今出ましたけれども、ナイトレジャーですね。外国人から見たときのナイトレジャーが上野はまだ非常に欠けていると考えております。

その中で、まずその前にやらなくてはいけない、安全・安心に夜の上野を楽しめるかという観点でいきますと、私の一番の地元の上野2丁目仲町通り商店街という場所があるのですけれども、いわゆる客引き、ぼったくりの問題が非常に横行しており、事件が続発している状況は変わりありません。そこで、現在、上野警察署長も、任期中に気合を入れてやっていくということで今いろいろとプロジェクトが動き出していますけれども、私としても、ナイトライフの充実の前に安全・安心のまちをどのようにつくるかをテーマに動いているところです。そういった状況をぜひ皆様にも御共有いただければと思い、意見させていただきました。

以上です。

○座長 ありがとうございます。最低限、当然そこがないと先に行かないということですね。

ほかにはいかがでしょうか。特によろしいですか。

○オブザーバー代理

本資料2-2の17ページが緑のお話だったかと思うのですがけれども、この資料のつくり方でXLとかSとか、私にはよく理解できないのですがけれども、その中で街路樹に関し

てSという評価のような言葉が散りばめられていますけれども、街路樹の緑というのは、やはりまとまった緑空間をつないでいく機能かなと思いますので、Sという表現はちょっと違うかなという意見が1つです。

それから、25ページで、上野、新宿、渋谷、池袋という並びですけれども、駅の順位でいくと新宿が日本最大の乗降客の駅ですけれども、上野を考えると確かに高田馬場の次ぐらいの順位で、あまり乗降客としては多くない駅の並びになっているかと思います。その中で自動車交通量が5～2%と言っていますが、ほかの駅と比べると上野駅って自動車交通でいくと少ないのではないかなという気もしますし、その辺をもうちょっとよく深掘りしてここは見ていくべきだなと思っています。

それから、資料編のほうで交通量があって、参考資料4の9ページですけれども、現地でイベント時に私もこの周りを見させていただいて、1のところの交差点はふだんから混んでいるところではあるのですが、イベント時にやはり相当交差点を曲がり切れない、さばき残りの交通量があって、何も問題ないかのような事務局の御説明だったのですが、ここはしっかり見る必要があるかなということと、それから上野パーキングセンターの出入り口のところもさばき残りの交通が結構発生していて、交差点交通量とか信号処理だけでここは問題ないというのはちょっと短絡的な言い方かなと思っています。ユーザー側の使い勝手の面もよく考えて、これから駐車場の検討もされるかと思っていますので、駐車場ルールだけではなくて、現地の状況も踏まえて真剣に検討してもらいたいなと思っています。

意見です。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

データについていろいろ御質問もありましたので、後で確認していただいて、駐車場をこれからどうするかということを議論する際に、当然のことながら、車の流れはどうなっているんだ、人の流れはどうなっているんだということでしょうから、ぜひ基盤の中でまたもんでいただいて、いいプランにしていただければと思います。

ほかはいかがでしょうか。

時間の関係もあるので、最後まで行ってしまいませんか。まだ資料が残っていますので、最後まで一旦説明していただいて意見交換しましょう。

(3) 来年度以降の上野地区における主な取組予定について

<事務局より【資料3】について説明>

○事務局 参考資料を御紹介だけさせていただきます。

先ほど杜まち連携カレンダーを御紹介させていただきましたけれども、その次の参考資料3といたしまして、令和8年1月版の公民学連携組織上野版エリアプラットフォームのパンフレットを用意しております。こちらは後ほど御覧いただければと存じます。

それから、参考資料4「社会実験の詳細」につきましては先ほど御説明させていただきました。

参考資料5といたしまして「ひと中心の分かりやすい都市空間等」という資料を御用意しております。こちらにつきましては、上野まちづくり協議会様が御提案されたまちづくりの将来像とか他都市の取組事例、さらには上野と世界の主要都市の比較といたしまして、駅と公園の近接性、上野の特徴でもございます、上野駅に隣接する形で広大な緑を擁する上野恩賜公園が立地しているということにつきまして、世界の主な都市との比較、近接性について整理しております。こちらの資料につきましては後ほど御覧いただければと存じます。

最後の参考資料6といたしまして「上野エリアマップ」を最後につけております。A3のカラーの資料でございます。これは上野地区の一部でございますけれども、上野駅、上野恩賜公園を中心といたしまして、その周辺にどのような施設とか道路・公共施設等があるかを御覧いただけるようにしております。さらには、今回から商店会の位置につきましても反映させていただいております。また、春日通り、中央通りにある地下道につきましては薄いグレーの色で示させていただいているというものでございます。

簡単ですが、参考資料の説明は以上でございます。

○座長 それでは、来年度からエリプラの立ち上げを考えたい、あるいは駐車場整備の考え方の整理をしたい、そして、できれば、2027年には銀座線100年だし区政も80年ということだそうですが、何かもう少しはっきりしたビジョン並びに具体的に短期にこれをやりたいということを都民の方に御説明できるようにしたいということでございます。その間まちづくり部会と基盤部会でそれぞれ議論を重ねていただくということで、一旦部会に分かれて議論が進んでまいりますので、ぜひ両部会にこれだけはお願しておきたいというようなことがあればこの際御発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 地元の者として東京都さんにぜひお願いしたいのが、上野公園内に大規模な芝生のエリアをお造りいただければありがたいなと思っております。今度、東京国立博物館さんが噴水を潰して芝生広場を造られて、いろいろイベント等々をされるような準備をされるということですが、上野公園内に滞留する場合に、代々木公園や新宿、ほかのエリアの公園と違って、上野公園には少し腰を下ろして御家族等々がゆっくりするような場所がありませんのが特徴的で、用途としてはあまりよくないのですけれども、噴水広場をなくして、そこに大規模な芝生のエリアを構築したり、また、伝統的な正岡子規の野球場がありますけれども、あれを移設して、あそこに芝生広場を構築するような、公園内で少し腰を下ろして滞留するというようなところを考えていただければ、より上野公園内の活用的な部分も広がってくると思っておりますので、その点を心の隅にとどめておいていただければありがたいと思います。

○座長 基盤としては、当然のことながら公園も大変大事な基盤なので、何かお答えになりますか。いいですか。

○オブザーバー 上野公園も150周年で数年前にイベントを開かせていただきました。再生を行ってありまして、駅前の広場を改築したりとか、いろいろ整備は進めております。今現在出来上がっている公園ですので、御意見として心の隅に入れさせていただきたいと思えます。

○座長 ありがとうございます。

公園と様々な美術館・博物館の連携ももちろんですし、その間にある道路の再構築だったり、公園の中にもより一層公園の魅力を高めるようなしつらえをということだと思えますので、また基盤の中でも議論をしていただければと思います。

ほかはいかがでしょうか。先生方からは特によろしいですか。

こうやって全員が集まるのは、昨年から1年たっていますから、1年に一遍ぐらいの形になるのかも分かりませんが、ふだんそれぞれいろいろな場面でお会いになると思えますし、基盤とまちづくり部会、それぞれに分かれて議論をしておりますが、今日最後のほうにあったとおり、空間がないとなかなか様々な活動もできないし、活動がないと空間も面白くならないということですから、ぜひ連携を取っていただいて、先ほどの連携のカレンダーもありましたけれども、まちとして上野の杜とまちと全体で上野を盛り上げていくということを今後ともやればよいなど。ぜひ御遠慮なく事務局あるいは各部会に御発言いただいて、いいものにしていただければと考えております。

特に重ねて御発言がなければ、一旦ここで事務局にお返ししましょうか。——よろしいですか。

では、事務局のほうで最後に何か連絡事項があれば、お願いしたいと思います。

○事務局 座長、本日は誠にありがとうございました。

本日の議事は以上でございます。

本日御報告いたしましたまちづくり推進部会のエリアプラットフォーム構築に向けた今後の検討、地上・地下デッキの3層の歩行者ネットワークに関する検討、駅を基点とした都市空間の創出に向けた検討、グリーンインフラ等々、こちらについて共有させていただきました。

今後は、皆様から頂いた御意見を踏まえまして、さらに検討とか必要な調査を進めてまいります。

また、来年度、日程等も決まりましたら、また御案内させていただきます。

4 閉 会

○事務局 本日は、お忙しい中御参加いただきまして、誠にありがとうございました。これもちまして第6回上野地区まちづくりビジョン推進会議を閉会といたします。

本日はどうもありがとうございました。

午前11時52分 閉会